



浜松ホトニクス株式会社

2024 年 9 月期決算説明会

2024 年 11 月 11 日

Agenda

01 | 業績概要

02 | 中期計画

成長戦略
財務戦略

丸野： それでは私から、決算についてご説明をさせていただきます。

本日のアジェンダです。

業績概要、そして中期計画、特にこの成長戦略と財務戦略について重点的にお話をさせていただきたいと思っております。

業績概要 (FY23-FY24)

先行手配からの反動減の影響長期化により減収となったが、第4四半期から改善傾向にあり

(単位：億円)

	FY23	FY24	FY24 (NKTP社除く)	前期比		前期比 (NKTP社除く)	
				増減額	%	増減額	%
売上高	2,214	2,039	2,003	-175	-7.9	-211	-9.5
売上総利益 (%)	1,200 (54.2%)	1,038 (50.9%)	1,022 (51.0%)	-162	-13.5	-178	-14.8
営業利益 (%)	566 (25.6%)	321 (15.7%)	342 (17.1%)	-245	-43.3	-224	-39.6
EBITDA (%)	714 (32.3%)	498 (24.4%)	523 (26.1%)	-216	-30.3	-191	-26.8
当期純利益	428	251	275	-177	-41.4	-153	-35.7

為替				為替感応度/年 (1円変動時)		対前期比における 営業利益における為替影響額 50億円
ドル (円)	139.03	150.54	150.54	1ドル	3億円	
ユーロ (円)	148.38	163.16	163.16	1ユーロ	1億円	
元 (円)	19.74	20.62	20.62	1人民元	10億円	


サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

まず、業績の概要です。

残念ながら 24 年度は減収、そして減益という結果になりました。NKT Photonics 社の買収の件を除いたとしても、残念ながら減収減益という状況でございました。

主な減益の理由ですが、こちらは売上減少に伴う粗利の減少が、非常に大きな要因を占めております。



業績予想 (FY24-FY25)

多くの業界で需要改善傾向となり、増収
積極的な成長投資により減益となるが、FY26以降は安定した成長を見込む

(単位：億円)

	FY24	FY25 計画	前期比		対前期比 NKTP影響額	対前期比 為替影響額
			増減額	%		
売上高	2,039	2,189	150	7.4	112	-35
売上総利益 (%)	1,038 (50.9%)	1,099 (50.2%)	61	5.9	54	-35
営業利益 (%)	321 (15.7%)	241 (11.0%)	-80	-24.9	-48	-26
EBITDA (%)	498 (24.4%)	461 (21.1%)	-37	-7.4	-15	-26
当期純利益	251	180	-71	-28.3		

為替	FY24	FY25	為替感応度/年 (1円変動時)		対前期における 営業利益における為替影響額
ドル (円)	150.54	145.00	1ドル	3億円	
ユーロ (円)	163.16	155.00	1ユーロ	1億円	
元 (円)	20.62	20.00	1人民元	10億円	
					-26億円

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 6

ここから、2025 年度のお話をさせていただきます。業績予想です。

多くの業界の需要改善傾向が見られますので、売上に関しては増収を見込んでおります。営業利益に関しましては、25 年を中心に積極的な投資を継続しておりますので、結果として営業利益は減益という方向で今は見込んでおります。

また、この 25 年度の計画は、ドルが 145 円、ユーロが 155 円、元が 20 円で計算して作っております。これから世界状況がどう変化していくかまだ不透明なところもございますが、仮に今年の末と同じような状況が続くとして、なおかつ NKT Photonics を買収しなかった状況を想定した場合には、営業利益、EBITDA もほぼ横ばいというような結果になる。

さて、これからいろいろ細かく話しますが、今回の減益の要因の主なところは、販管費、研究開発費の増加が大きく効いています。これは NKT Photonics の買収も加わったことにもよりますので、減益の額は大きくなっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



業界別概要（医用・バイオ機器 FY23-FY24-FY25）

(単位：億円)

	FY23	FY24	FY25 (計画)	FY23-FY24		FY24-FY25	
				増減	%	増減	%
放射線検査装置	524	414	399	-110	-21.0	-15	-3.6
検体検査装置	226	197	211	-29	-12.8	14	7.1
医用・バイオ機器	781	649	700	-132	-16.9	51	7.9

放射線
検査装置

- X線CT向け（FY23-FY24… -53億円、FY24-FY25… 横ばい）
欧米の金利高による設備投資抑制により需要減
先行手配による在庫調整はFY24で概ね完了
- デンタル向け（FY23-24… -48億円、FY24-FY25… +3億円）
中国市場を中心とした価格競争激化
欧米の金利高による中小クリニックの設備投資抑制により需要減継続

検体
検査装置

- PCR向け（FY23-FY24… -10億円、FY24-FY25… 横ばい）
コロナ関連の特需は終了
- 病理診断向け（FY23-FY24… +2億円、FY24-FY25… +11億円）
FY24は医療機器での拡販により日本国内の医療機関向けで需要増
FY25は欧米での拡販を見込む

業界別概要（産業用機器 FY23-FY24-FY25）

(単位：億円)

	FY23	FY24	FY25 (計画)	FY23-FY24		FY24-FY25	
				増減	%	増減	%
半導体製造・検査装置	333	315	355	-18	-5.4	40	12.7
半導体故障解析装置	105	101	114	-4	-3.8	13	12.9
非破壊検査装置	203	162	164	-41	-20.2	2	1.2
産業用機器合計	744	663	739	-81	-10.9	76	11.5

半導体製造・
検査装置

- ウェハ検査向け（FY23-FY24… -21億円、FY24-FY25… 横ばい）
在庫調整の影響により需要減
FY25までは横ばいを見込むものの、FY26以降は需要大幅増加を見込む
- ステルスダイシング（FY23-FY24… +23億円、FY24-FY25… +2億円）
AI市場活況によりHBM（High Bandwidth Memory）向けで需要継続

半導体故障解析装置

FY24は出荷ずれでマイナスも、ロジックへの拡販、HBM向けでの需要増加により堅調

非破壊検査装置

- 電子部品検査装置向け（FY23-FY24… -13億円、FY24-FY25… +7億円）
データセンター向けなどにより電子部品向けは回復傾向
- 電池検査装置向け（FY23-FY24… -18億円、FY24-FY25… -2億円）
EV市場の減速感大きく、需要減の状況が継続

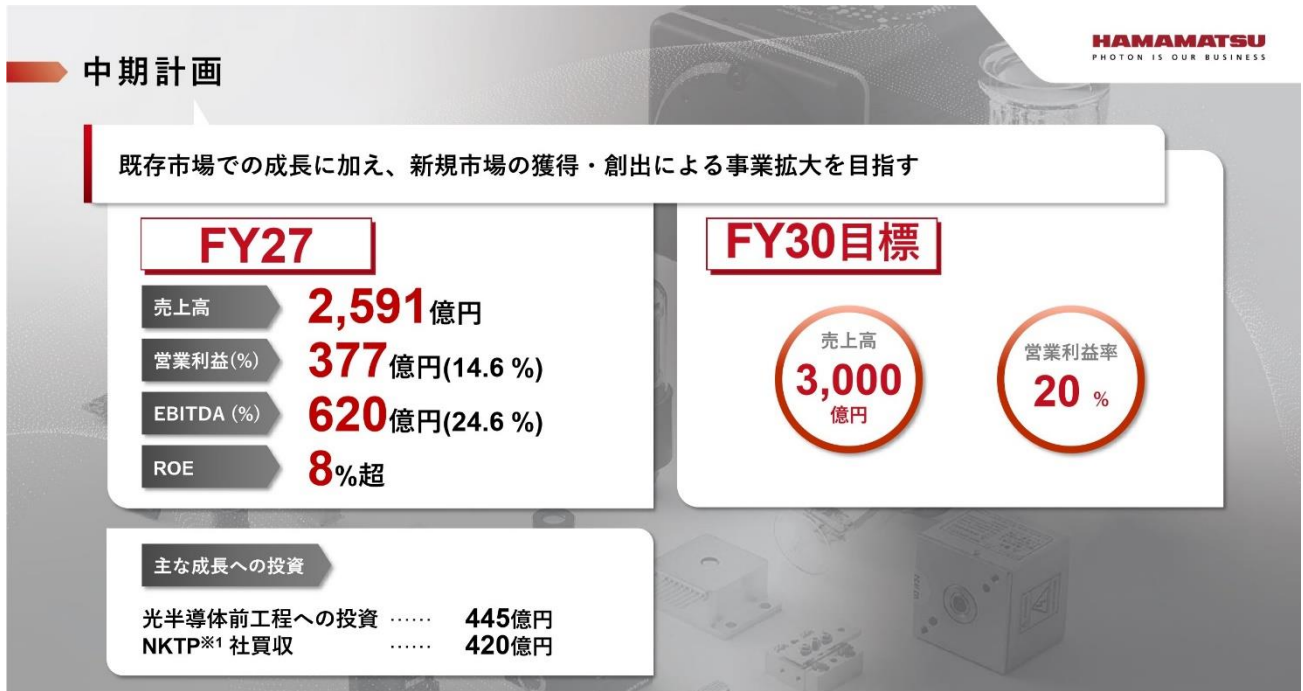
業界別の動向でございます。

ここに特筆させていただきますが、2023年から24年にかけては、全ての業界で下方となりましたが、これから24から25にかけて、全ての業界がほぼ増収の方向に動いておりますので、私たちとしては売上に関しては底打ちをしたと理解しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

ここから、各業界の細かな動向を、24年から25年の計画に関して説明しております。これは、この後の中長期計画の中で詳しくお話をさせていただきますので、お読みいただければと思います。



ここからが今回、本日の本題の中期計画について、細かく、詳しく、成長戦略と財務戦略に関してお話をさせていただきます。

まず、中期計画でございます。

この3年計画、私たちが立てた計画としまして、売上高は2027年度に約2,600億円、営業利益は売上比率14.6%の377億円、EBITDAでは620億円を見込んでおります。ROEも一時低下しますが、この27年度には8%を超える見込みでございます。

ここの要因ですが、私たちは今非常に活発な投資を行っています。これは将来の成長のために必要不可欠だと考えております。光半導体の前工程への投資で約445億円、NKT Photonics社の買収420億円。

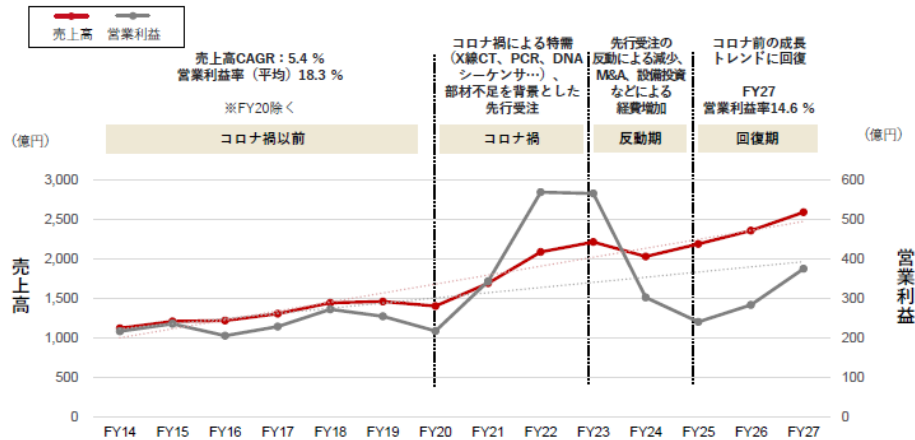
こういった投資のその先にあるところは、こちらに示しました2030年度の目標として、売上を3,000億円で、そして営業利益率を20%台にまで持っていく大きな目標のもとに、われわれは今前に進みつつあります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

業績推移

FY25～FY27 将来の先行投資期間
FY27以降大型投資、M&Aの投資効果により成長を加速



© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 13

ここで現在に至るまでの状況を、少し振り返ってみたいと思います。

2020年度から前の会社の実力としては、およそ売上高の成長がCAGRで5.4%でした。そして営業利益率でございますが、平均すると18.3%で、20%弱を行ったり来たりというような、そんなところが私たちの実力でした。

ところが、コロナ禍によって私たち自身も受注が落ち込むと思いましたが、全く逆の現象が起きました。これは、コロナの診断に使われるPCR用の検出器、そしてこのPCRの供給が追いつかないことでX線CTの需要が非常に伸びました。簡易的なX線CTでコロナを診断する。そしてコロナの変異株の検出のために、DNAシーケンサー用のディテクターも非常にたくさん注文いただきました。

特需というとおかしいのですが、こういったお客様からの非常に強いご要望をいただきまして、売上も利益もこのように一気に伸びました。売上に関しては、1,500億円前後だったものが2,000億円を2年ぐらいで突破してしまいました。営業利益も、200億円前後から一気に600億円近くまで、3倍弱まで伸びました。

この後、部品不足が起こりまして、多くのメーカーから先行発注をいただきました。それがお客様の過剰在庫となって当社の売上も低迷し、利益率も額も低下したのが2024年度でございました。

今、反動期を迎えているわけですが、この反動期に重なって、先ほどお話ししましたM&Aや設備投資、こういったものの経費増加が重なったため、今、利益の面でも底を打っている。売上は、24

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

年度が底、利益は 25 年度が底。そしてここから、順調に回復していくと見込んでおります。この辺りも、この後詳しくお話をさせていただきます。

大きな二つの投資ですが、まず一つ目の光半導体事業への特に前工程への投資です。その意義をもう一度お話しさせていただきます。

私たち浜松ホトニクスビジネスモデルは、カスタム化、少量多品種です。お客様のご要望をきめ細かに聞き取り、高い付加価値でソリューションを提供する。お客様ごとにカスタム化することで、どうしても少量多品種になります。言い方を変えればスーパーニッチカンパニーでもあります。

こういった少量多品種を高付加価値で販売する、これを実現するためには全て外ファブで行うことは不可能です。もちろん当社の中では外ファブを使っている部分もかなりございます。ただ、こういった小回りの利いた高付加価値製品を短期間で仕上げるということは、自社ファブで開発をし、それをすぐに生産にいち早く移していく。こういったループを実現するためにも、われわれは最低限の自社ファブはどうしても持っていないてはいけません。

自社ファブの改定ですが、大体過去の歴史から見て 20 年に 1 回のサイクルです。ちょうど今そのサイクルで、私たちの製造ライン、今 6 インチのウエハを使っているのですが、これを 8 インチにアップする、これは必要不可欠な投資だと考えております。これがないと将来の成長、発展にはつながらないと思っております。

もう一つの大きな投資、これは NKT Photonics の買収でございます。

皆さんご存じかとは思いますが、当社、浜松ホトニクスは受光素子のトップメーカーでございます。光電子増倍管もあり、光半導体もあり、2次元のイメージャーもございます。非常に優れた世界トップシェアの受光素子をたくさん持っております。

一方、発光素子となりますとランプが主流でございます。このランプは、いずれこういった半導体素子に置き換えられていく危機感を持っているわけですが。残念ながら、当社の LED、LD のビジネスは非常に小さくて、不安要素でもあったわけです。

今回、NKT Photonics 社を買収したことによって、彼らの持っている世界最先端のファイバレーザの技術を取り込むことができました。この買収によって、われわれは受光素子、発光素子の両方を手に入れたわけです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



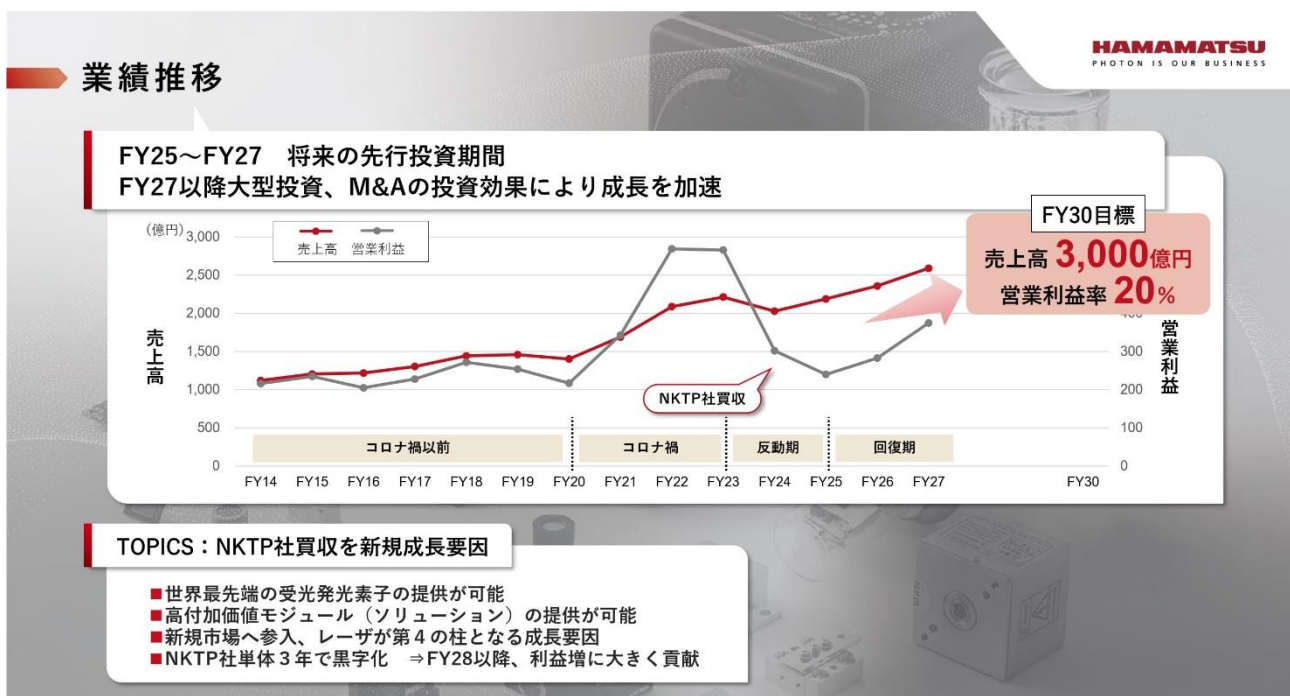
これから NKT Photonics を中心に、レーザ事業を第 4 の柱にしていくこと、そして受発光で非常に高い付加価値を持った製品を市場に投入できることは、非常に強い強みです。世界でも類のないメーカーだと私は思っております。

簡単に NKT Photonics のことを紹介します。彼らのコア技術は、フォトニック結晶ファイバ (Photonic Crystal Fiber) でございます。これは超短パルスレーザの光を増幅できる技術であり、これを量産できる世界唯一のメーカーです。また、この技術自体は、他のレーザメーカーにも供給しているような、本当にレーザ業界でのコア技術でございます。

こういったファイバレーザの技術を持ったメーカーでございまして、このコア技術、フォトニック結晶ファイバを使って、白色光レーザ、単一周波数ファイバレーザ、超短パルスレーザと、こういったものを主力製品として、メディカルやライフサイエンス、インダストリー、セキュリティ、量子、こういった分野に製品を提供しております。

われわれは競合するような製品を提供しておりません。当社と NKT Photonics 社が同じファミリーとして、これからこの市場に入っていくことは、非常にこれはアドバンテージになると考えております。

なお、ヘッドクォーターはデンマークにありまして、従業員は 450 人程度。2023 年の売上は 88 ミリオンユーロでございます。



© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 14

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

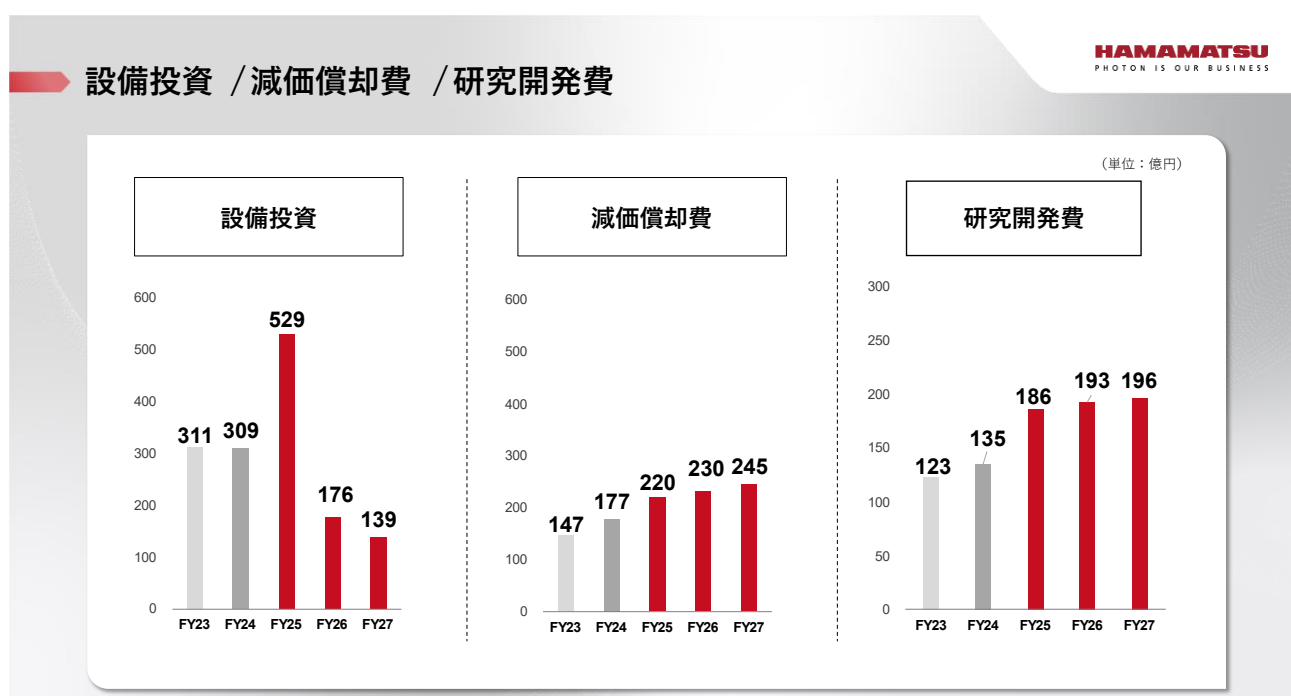


さて、今お話ししましたような状況の中で、大きな投資をしてきたわけですが、結果としまして、25年度は売上2,189億円、そして営業利益は240億円、営業利益率11%を見込んでおります。

ただ、お話ししましたように、NKT Photonicsとのシナジーを使い、そして当社独自の戦略も使って、これは順調に回復させていく予定でおります。NKT Photonicsの買収、そして彼らのコア技術を取り入れて、レーザ事業を第4の柱として成長していくつもりでございます。

私たちが見据えている将来でございますが、今お話ししましたように、2027年は一つの通過点だと思っております。その先に目指しているものは、売上3,000億円、そして営業利益600億円、これを2030年度に実現したい。

売上高3,000億円、営業利益率20%を目標に、われわれは今大きな投資を行って、そしてこれから持続的に成長していくつもりでございます。



© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 15

設備投資に関しましては、今お話ししましたように、この25年度はかなり大きな設備投資がございますが、これで設備投資も一段落します。以降はかなり設備投資額も低く抑えていく予定でございます。減価償却に関しましては、おおよそ250億円ぐらいでもって頭打ちになっていく予定でございます。

ただ、非常に重要な研究開発費、こちらはコロナでなかなか研究開発を進められなかったのですが、この25年度からNKT Photonicsの開発費も入りますので、売上高比率はおよそ8%前後の値

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

になりますが、180 億円から 190 億円を一つの目安にして、研究開発を行っていくつもりでございます。

既存市場の拡大

医用・バイオ

- 在庫調整の完了により従来の成長トレンドに回復
- CT/PET市場の次世代技術を投入・差別化
- デンタル市場はCMOSやAI技術の投入で欧・米・日本市場の確保

産業

- 在庫調整の完了により従来の成長トレンドに回復
- 半導体製造工程から解析用途向けにトータルでのソリューション強化
- マイクロフォーカスX線源（MFX）の高電圧対応などによる競合との差別化を図りシェアを維持

	FY23	FY27	増減	CAGR
医用・バイオ機器	649	864	215	10.0 %
産業用機器	663	872	209	9.6 %
分析機器	204	256	52	7.9 %
学術研究	164	145	-19	-4.0 %
計測機器	102	118	16	5.1 %
輸送機器	56	72	16	8.6 %

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 16

業界別の動向でございます。

この後の成長戦略の中で、詳しくお話をさせていただきます。

成長戦略

01

強みを活かせる既存市場で着実な成長

半導体
医療診断
非破壊

- ▶トレンドを掴んだ新技術をタイムリーに投入、揺るぎないポジションを確保
- ▶市場を熟知、顧客ネットワーク、高いシェア

03

NKTP社買収のシナジーをフル活用

- ▶受光、発光の技術をもつことでシナジーの創出
- ▶NKTP社のもつ新規市場で成長を加速

02

高付加価値モジュール製品の投入

- ▶社内技術を融合し、新しいビジネスコンセプトで高利益率を確保

04

中央研究所の成果を市場へ投入

- ▶中長期戦略として光の新規市場の創出

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 18

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



成長戦略でございますが、四つの成長戦略をまとめてみました。

非常に大切な部分でございますが、一つ目、これは強みを活かせる既存市場で着実な成長をする。これは当社、浜松ホトニクスが70年間築き上げてきた市場で、特に強い半導体、医療機器、非破壊などの産業、この分野でもって確実にトレンドをつかんで、新技術をタイムリーに投入する、そうすることで非常に高いシェアを持っておりませんが、揺るぎないポジションを確保することができると思っています。

なぜならば、私たちはこの市場を熟知しております。また、大手メーカーさんをはじめ、非常に強い顧客ネットワークを持っておりまして、当然非常に高いシェアを持っておりまして、ここをがっちり守って、新製品をタイムリーに投入することは持続的な成長を達成するためにも非常に重要な部分でして、これがまず土台になります。

その後、高付加価値モジュールの製品の投入、これは何度か投資家の皆さんにもご説明をさせていただきましたが、社内で今までバラバラになっていた技術を融合していき、新しいビジネスコンセプトとして高付加価値の製品をコンポーネントではなくモジュールとして提供する。そうすることによって利益率をしっかりと確保していくビジネスモデル、これを推進していきます。

また、NKT Photonics の買収を行いましたので、このシナジーをフル活用したいと思っています。量子の分野、これは当社と NKT Photonics 社が非常に強い分野です。これから成長する市場ですので、ここをしっかりと力を入れて展開していきたい。

また、私たちの製品、光ディテクターは、医療といってもむしろ診断に使われる分野だったのですが、この NKT Photonics は、レーザを使った治療の分野で非常に強い地位を今築きつつあります。治療の市場はわれわれにとっては新しい市場です。。そしてもう一つ、これは非常に発展性を持っているのですがセキュリティの分野。こういったところを NKT Photonics と一緒にしっかりと成長させていく、この三つが基本戦略でございます。

最後に、中長期的な5年、10年かかる先の話ではございますが、中央研究所の成果をしっかりと投入して、今のターゲットであるテラヘルツ分光、それからレーザ加工、こういった分野で新しい光の市場をつくり上げていきたいと考えています。

それでは、中身をもう少し細かく説明させていただきますが、その前に、今お話ししました戦略をまとめてみます。最初の部分が、当社が持っていた市場、これをしっかりと築き上げて、揺るぎない立場をつくっていく。半導体、医療、これは診断に関する医療、非破壊産業。そして NKT Photonics とのシナジーでモジュール化を推進し、さらに量子の分野で発展。医療、セキュリティ

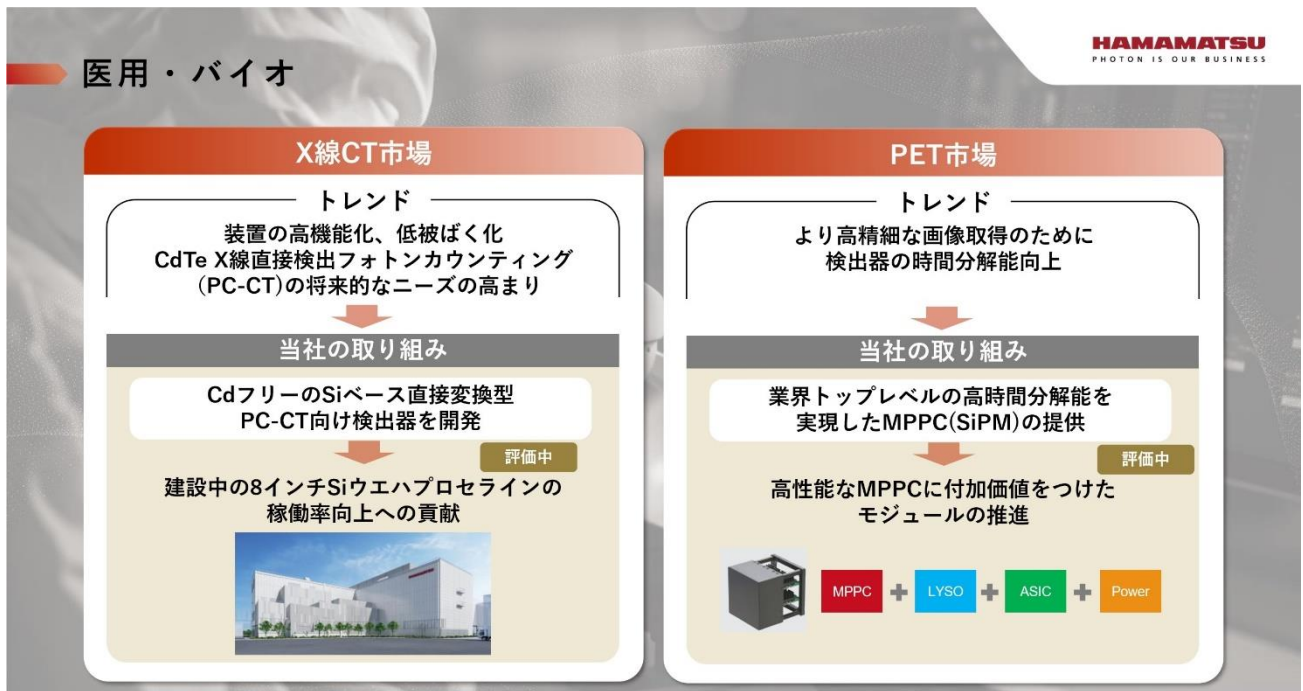
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



で上乗せをする。そして、中長期でテラヘルツやレーザ加工を新しい市場として作り上げていきたいと思っております。

まず、一つ目の強みを活かせる既存市場での着実な成長。特に半導体、医用・バイオ、非破壊、この分野に関してお話しさせていただきます。



© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 19

まず、医用・バイオでございます。

皆さん大変ご心配いただいておりますが、このX線CTの市場は、私たちは市場の回復とともにまた成長が始まると確信しております。

ただ、一つキーワードとして、この市場は今、低被ばく化が進んでいます。低被ばく化、高機能化を実現するために、カドミウムテルライドという新しい検出器を使ってX線を直接検出するフォトンカウンティングCTが今大きなトレンドになっています。どの医療機器メーカーさんも、カドミウムテルライドを使った装置を押し上げる方向で動いております。

当社は、カドミウムは非常に環境に良くない、毒性を持ったものでございますので、カドミウムを使わないで、シリコンをベースにした直接変換型のフォトンカウンティングCT、この開発に非常に重点的に行っております。これは、既にお客様のところで評価中の技術でございます。

これは、8インチシリコンウエハを大量に使用しますので、建設中の新しい8インチのウエハの製造ラインを活性化する切り札にもなると考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



もう一つがPET（Positron Emission Tomography）市場です。。こちらは、より高精細な画像を取得したいのが強いトレンドでございます。一時競合が入る危機を迎えました。

あるメーカーさんが検出器の時間分解能が、素晴らしいものを出してきましたが、幸いにも社内の研究開発がうまく進みまして、今、業界でトップの時間分解能を実現したシリコンベースのMPPCという増倍型の検出器を提供することができる状況が整いました。これも既に評価中で、採用も決まったとも聞いております。

こういった高性能な、高時間分解能な検出器を、またモジュール化して提供することも推進していきたいと思っております。

医用・バイオ

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS

歯科用市場

トレンド

当社の取り組み

ハイエンド市場での差別化

全社連携

- 顧客ごとのカスタム化・AIノイズ除去による高精細化・ユーザビリティ向上
- 日本・欧州市場でシェア確保
- BAE Systems Imaging Solutions, Inc. 買収によるアメリカ市場の進出・獲得
- BAE Systems Imaging Solutions, Inc. の超低ノイズCMOS設計技術を導入
- X線ビジネス戦略室設立による新規設計・販売戦略の立案
- TFTから小画素CMOSイメージセンサ開発で差別化

TFTベースX線フラットパネルのコモディティ化
中国市場における価格競争激化

Raw Image

HPK AI Denoise Image

アメリカ 日本

アメリカ

アジア

欧州

欧州

日本

アジア

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 20

医用・バイオの最後の分野は、歯科（デンタル）用の市場でございます。

ここは、投資家の皆さんもはじめ、一番皆さん気にされている分野ではないかと思えます。確かに今、直近では売上が下がっております。

その理由としては、これはリスクでもあるのですが、TFTという、かなり昔の技術を使ったフラットパネル、これがコモディティ化してきております。コモディティ化したということは、中国メーカーが入りやすくなってきているということで、安かろう悪かろうではないのでしょうかけれども、そそこの製品を非常に低い価格で、中国市場で中国の競合が展開しております。われわれはそれに対して何をしていくか。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

まず、ここに書きましたようにハイエンド市場で差別化をするのが最終目標ですが、現在の TFT を使ったモデルでも、私たちの強いところは顧客ごとにカスタム化をしてきたことです。そして、社内独自の AI 技術を開発しまして、AI によるノイズを除去することで、高精細な画像をつくり上げる。

イメージはセンサから取り込んだ画像で作られた従来の CT 画像でございます。黄色の線は輝度を示したのですが、たくさんのノイズが乗っていて、画質が非常によくありません。ただ、これに当社独自の AI デノイズという、ノイズを除去するアルゴリズムを加えますと、コントラストは保ったまま、ノイズを大幅に除去できる。

これは非常に高い評価を受けておまして、日本の大手メーカーさんが既に評価をされていて、採用の方向で今動いていただいております。また、欧州の市場でも、こういった顧客ごとのカスタム化や、こういった AI のデノイズ技術、そしてユーザビリティの向上で、今、新しいお客様の受注も、新規に獲得いたしました。こういったことで、現状の市場でも日本や欧州ではまだまだ競合、われわれは戦っていけると考えております。

もう一つ大きなニュースは、11月5日に発表させていただきましたが、アメリカの BAE Systems Imaging Solutions を買収いたしました。

このメーカーは、ここに示したようにアメリカのデンタルの市場を持っております。今、当社のデンタルのアメリカでの市場はほんのわずかです。ほとんどビジネスはないと言っているのですが、今回、BAE Systems 社が加わったことで、アメリカの市場が一気に広がりますので、これからアメリカも中心に欧米、そして日本でシェアを拡大していきたいと考えております。

それからもう一つ、X線ビジネス戦略室を設立しましたので、こちらでもってこの BAE Systems の技術を取り入れながら、TFT を使ったフラットパネルから小画素の新しい、次世代の CMOS イメージセンサを開発する方向で今動いております。常に先を行き、中国の競合メーカーが追い付けないような、素晴らしい形式を提供していきたいと考えております。

以上が医療の分野でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



産業用（半導体製造装置・検査装置）

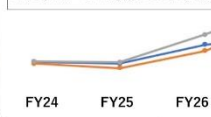
- 半導体前工程ファブ装置への投資が今後3年で過去最高に
- HBMなどAI関連半導体の需要が成長索引

半導体製造装置市場
(300 mm Fab)

**1,400億
ドル**
CAGR 9.05%
(2024-2027)^{※1}

主要顧客需要動向変化

四半期ごと
需要が上振れ



半導体製造装置・検査装置に必要な不可欠な当社製品の安全供給

<p>マスクフランク マスク異物・欠陥検査</p> <p>検査用 EUV光源</p>	<p>光学式微小寸法 計測</p> <p>レーザ励起 プラズマ光源</p>	<p>エッチングプロセス 終点判定プラズマ発光分析</p> <p>分光計測用 CCDイメージ センサ</p>
<p>ウエハ異物・欠陥検査</p> <p>キセノン ランプ</p> <p>光電子 増倍管</p>	<p>TDI-CCD イメージ センサ</p>	<p>ステルスダイシング</p>

半導体製造装置に今後必要とされる新技術（モジュール製品）を投入

<p>NEW</p> <p>高ダイナミックレンジ 分光器 OPAL-LUXE</p>	<p>NEW</p> <p>ウエハ 異物・欠陥 検出モジュール</p>	<p>開発中</p> <p>ウエーハ 面内膜厚計</p>	<p>開発中</p> <p>ウエハエッジトリミング用 レーザエンジン</p>
---	--	----------------------------------	--

※1 出典：300mm Fab Outlook to 2027 / semi

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 21

続きまして、産業分野でございますが。半導体に関してお話しさせていただきます。

半導体製造装置市場は、2024年から27年、年率9%の成長で非常に大きな市場でございますが、特に近年、前工程のファブへの投資が非常に盛んになっております。また、HBM(High Bandwidth Memory)といった新しいメモリが今市場を牽引しております。

私たちの製品は、半導体の製造の前工程から後工程まで、非常に多くの製品を提供しております。ほとんどの製品がトップシェアでございますので、半導体の市場の回復は、そのままわれわれの製品の売上にもつながると確信しております。

これは大手顧客からの情報ですが、この2024年度のファーストクォーター、セカンドクォーター、サードクォーターで、彼らのこれからの将来のフォーキャストがどんどん上振れしています。これは非常にいいサインだなと考えております。

また、これからはこういったコンポーネントを提供するだけではなくて、新しい高付加価値モジュール製品を今どんどん投入しております。今、半導体製造装置メーカー各社さんで評価中でございます。エンドポイントモニター用に、今まで絶対に実現できなかった、非常に高いダイナミックレンジを持った新しい分光器や、干渉顕微鏡の技術を使った新しい異物検出、またウエハを一括で膜厚を測定する新しい装置や、ウエハのエッジをトリミングするレーザエンジン、こういったものを提供していくつもりでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

産業用（半導体故障解析装置）

HAMAMATSU
PHOTOGRAPHY BUSINESS

半導体故障解析はオフラインからインライン全数検査へ ▶▶ 200億円規模のビジネス期待

- HBMの増産体制による需要が成長率引
- HBM・先端デバイスの歩留まり向上のため、抜き取りから全数故障解析へ

半導体市場

6,870億
ドル
CAGR 14.3%
(2023-2025)^{※1}

半導体故障解析装置



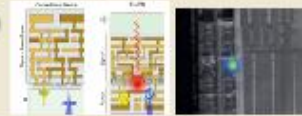
メモリ向け（AI用HBM）

- インラインでの検査需要
- フルオートメーション化に対応



ロジック向け

- 新技術（発熱解析）により
デバイスメーカーから ファンドリーへ展開



※1出典：WSTS Semiconductor Market Forecast Spring 2024

© 2024 Hamamatsu Photonics K.K. All rights reserved. All Rights Reserved. 77

なお、生成 AI 用チップは、中心に GPU がございまして、GPU は非常に高速な高度な処理をしますが、そのときに広帯域幅のメモリを必要とします。この HBM は、薄膜化された多層の超高速のメモリがスタックされているのですが、非常に歩留まりが悪いことで、半導体製造メーカーにとっては深刻な問題でございます。

これを解決するのが一つ大きな課題でございますが、今こういった流れを受けまして、新しい半導体の故障解析の分野では、今までは故障したものを抜き取って検査をするのが当たり前のことだったのですが、インライン検査で HBM の良品率を上げる、歩留まりを上げることで、これをフルオートメーション化する。今まで 1 台数億円のをラインに 5 台、10 台、20 台と投入する、とてつもない非常に大きなお話を各社からいただいておりますので、200 億円は一つ目標になると考えております。

また、今、ロジックの構造が大きく変わってきています。今まではトランジスタの上面に金属層があったのですが、新しい構造は、このトランジスタの上下にメタルのレイヤーが入ってしまって、光が入りません。よって、熱による解析が始まりましたが、これは非常に評価いただきまして、今、ロジックメーカーに導入が始まりました。こういったことも含めて成長要因になると思います。

サポート

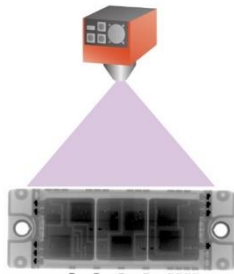
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

産業（非破壊検査）

- AI普及によるデータセンター向けAIサーバー基板の検査需要が急増
- EV用LiBの大型化、全数CT検査化
- 中国製低管電圧タイプのマイクロフォーカスX線源（MFx）との競合

AXI基板検査



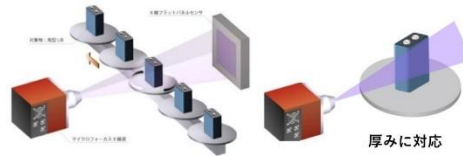
広角出力MFxの供給で
トップシェア確保

LiBの大型化



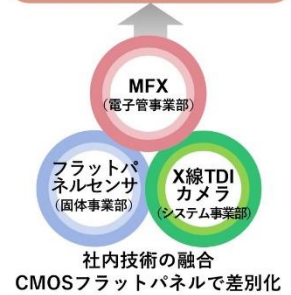
高管電圧MFxで差別化

LiBインライン検査対応



厚みに対応

X線 ビジネス戦略室



© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 23

産業分野に関しましては、AIの普及が一つ追い風になっておりまして、AIチップを搭載したサーバー、これは非常にどんどん大型化していますが、需要が急増しております。この基板検査は、私たちのX線源にとっては主要な市場でございますが、より大きな基板を一括で検査できるような、広角なX線出力を持った製品を供給することでトップシェアを確保したい。

またEV用のリチウムバッテリー、これは今低迷しておりますが、ただ、また緩やかに復調すると言われております。このバッテリーが今、どんどん大型化しております。またCT検査を検しますと、厚み方向に来たとき、大型のバッテリーはどうしてもX線源の管電圧が低いとX線が通りません。そこでわれわれは高い電圧のマイクロフォーカスX線源を提供することで差別化をする。こうしたことで中国製の低管電圧タイプに対して差別化して、しっかりとビジネスを構築していく。これはX線ビジネス戦略室とともに、CMOSも視野に入れて投入していきたいと考えております。

以上が、土台となる私たちの市場を、どう活性化して売上を伸ばしていくかでございます。

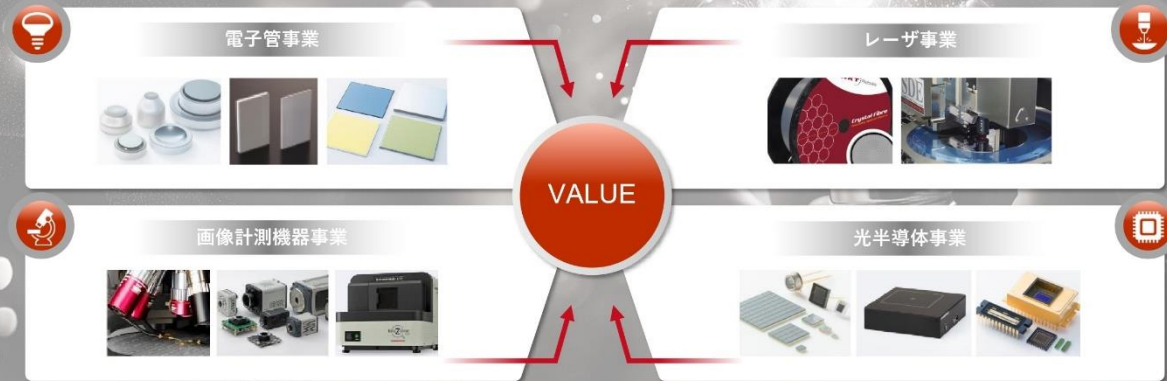
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

新規ビジネスモデルでの成長

高付加価値モジュールを新しいビジネスモデルとして確立

- 社内の要素技術を連携
- 優位性のある新規デバイスを市場ニーズに合わせた高付加価値モジュールで販売



© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 24

次に、高付加価値モジュールの製品の投入に関して、お話をさせていただきます。

私たちの事業部は、独立採算制ということもあって、あまり各事業部間の技術を交流させた製品ができなかったのですが、今、新しく事業部横断でもってさまざまな試みがされています。

高付加価値モジュールの推進

革新的な新デバイス

- 光半導体・光電子増倍管の融合
- 高SN・高ダイナミックレンジ・低暗電流



※1 : APD : Avalanche photodiode
 ※2 : PMT : Photomultiplier tube

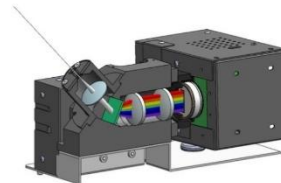
- センサ+読み出し回路・電源・分光器などによる高付加価値モジュール



分光器



電子回路



FY30
 売上目標
25億円

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 26

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

一つの例でございますが、アバランシェフォトダイオードという半導体技術を使った検出器と、光電子増倍管の光電面の技術を融合した新しいデバイスができました。

これは画期的なデバイスです。今までのアバランシェフォトダイオードや光電子増倍管が実現できなかった、非常に高い性能の検出器が実現できたわけですが、これを単にデバイス単体で販売するのではなくて、社内の分光器の技術、そしてこのデバイスを読み出し処理する技術を融合した、新しいモジュールとしてフローサイトメーターを中心に提供する方向で進んでおります。

こちらにも既にフローサイトメータのメーカーさんが評価しております。これは私たちにとっては非常に期待のできる製品でございます。

事業部間連携カスタムモジュール例


■ 高付加価値カスタムセンサ+ビルトインカメラモジュール

<固体事業部> イメージセンサ

<電子管事業部> シンチレータ+FOP

▶ 高ダイナミックレンジ
▶ 高速サンプリングレート
▶ 感度均一性、高解像度、放射線特性

<システム事業部> ビルトインカメラモジュール



©Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 27

もう一つ、電子線を照射して、そのターゲットを透過した電子線を分光するものです。分光するためには非常に高いダイナミックレンジや、たくさんのスペクトルが一度に撮りたく感度も均一でなくてははいけない。

固体事業部のイメージセンサを特注で設計し、電子管事業部の素晴らしいシンチレータとFOPの技術を合体。そしてシステム事業部で、それをモジュール化した高付加価値の製品に仕上げました。こんなこともやって、モジュール化を進めていきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

NKTPとのシナジーで生み出す新規市場

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS

■光を使った量子コンピュータの性能を決めるキーデバイスを供給

ハードウェア市場

●2035年 7億ドル (CAGR: 20%)

- レーザ光源・光検出器・光操作デバイスの全てを保有する企業
- 中性原子とイオンベースの量子コンピューティングメーカーが主要顧客
- 受発光一体モジュール化によるソリューション提供で量子市場をリード

iSAP
HAMAMATSU

2024年11月 当社協賛 iSAP開催
量子コンピューターをテーマにシンポジウムを開催
量子コンピューティングの世界のトップ研究者が参加

先端フォトリソグラフィ国際シンポジウム (iSAP Hamamatsu: International Symposium on Advanced Photonics)



FY30目標
70億円

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 28

3番目は NKT Photonics とのフルシナジーを使おうということです。先ほどお話ししましたように、受光と発光、両方の先端の技術をわれわれは手に入れました。そして、当社が今一番力を入れているのは量子の分野でございます。

光を使った量子コンピュータの分野、この性能を決めるキーデバイスは全て当社のものでございます。今回、11月に私たちが主催の iSAP というカンファレンスを開催しますが、ここに世界の量子コンピュータのトップリサーチャーが集まって大きな議論を開催します。それだけ当社に対して注目をしていただいていること、また期待値がいかに大きいかの証拠でもございます。ここをしっかりと伸ばしていきたい。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

NKTPが持つ成長市場

■眼科用レーザー治療器市場へ高品質・高安定のレーザー供給

眼科のレーザー治療器市場

- 世界的な高齢化に伴い拡大するQOLの鍵
- 2021年 170億ドル→2026年 225億ドル

- レーザ光源として医療機器認定取得済

白内障手術 屈折異常 硝子体手術

米国およびヨーロッパの複数の主要白内障手術用機器メーカーに供給。次世代機種的设计にも組み込まれる

緑内障、眼内レンズ、レーシック、加齢黄斑変性症など、他の眼科分野における新しいレーザー手術手技に関する複数のプロジェクトも進行中



FY30目標
40億円

また、NKT Photonics が独自に持っている分野として、レーザー治療の分野がございます。

これはレーザーを使って、主に白内障の手術を行うもので、欧米では今、非常に普及しつつあります。これは緑内障とか、眼内レンズ、レーシック、さまざまな手法にも応用展開ができる技術でございます。

新規市場の獲得

■セキュリティ市場に高安定・高出力レーザー供給

セキュリティ市場

- ドローンに対する公共施設のセキュリティ対策 (スタジアム・空港・港)
- レーザーによるドローンの無力化
- 2024年3.698億ドル
→2029年13.466億ドル (CAGR: 29.5%)
*Source: Anti-Drone Market – Forecast to 2029, MarketsandMarkets

- ドローンを無力化

ターゲット照射用パルスレーザー 高出力レーザー

過酷な環境での高信頼性
世界的な注目を浴びている成長市場
すでにプロジェクトは進行中



FY30目標
80億円

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

最後に、セキュリティの分野。これも私たちの持っていない市場ですが、これはドローンに対する公共施設のセキュリティ対策でございます。

ターゲット用の照射用パルスレーザと、高出力レーザでもってドローンを無能化するようなものがございます。今これが非常に注目を浴びておりまして、もう動作検証も終了し、今、受注待ちの状態でございます。ただ、これは中期の計画にはまだ入れ込んでございませんので、これから大きな成長を期待しております。

最後に、中央研究所。こちらは非常に足の長い話ですので今回はあまり細かくはお話しませんが、テラヘルツ分光、それから、今レーザ核融合をやっておりますが、ここで出てくる高出力レーザを使って、新しいさまざまな光を使った市場を構築していく所存でございます。

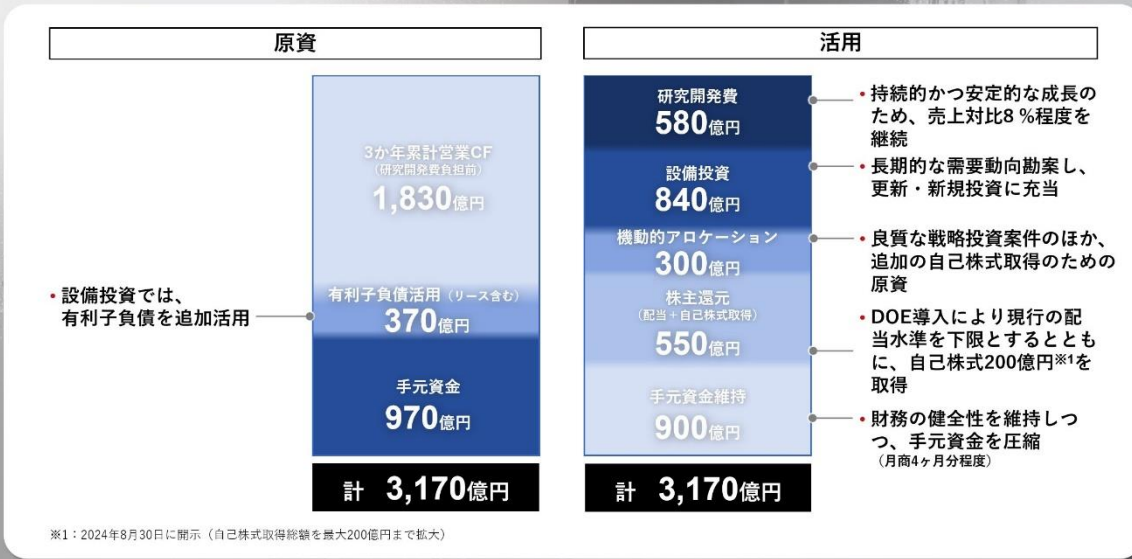
以上が成長戦略でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



キャピタル・アロケーション

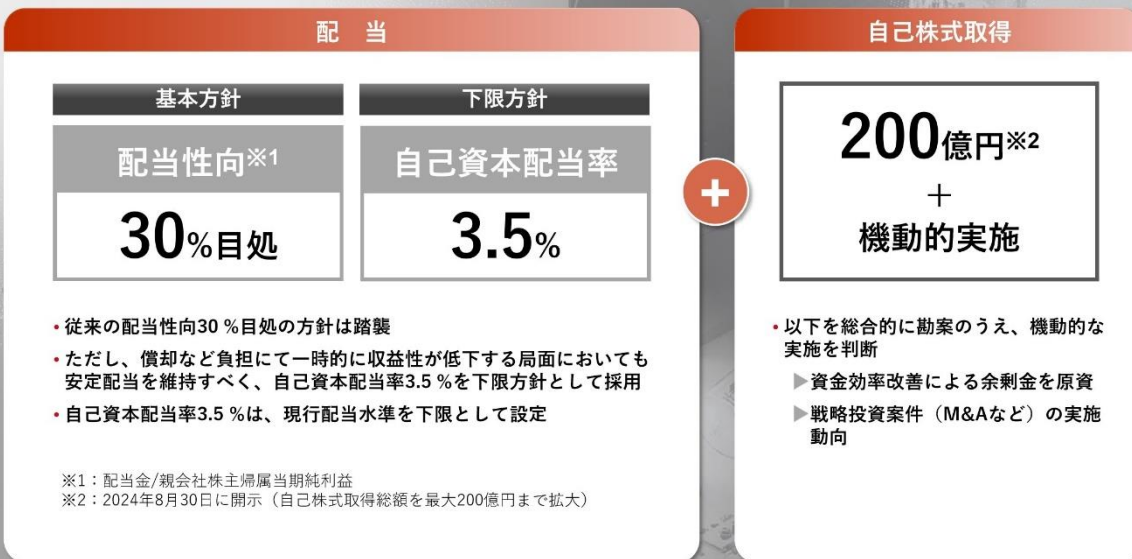


© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 33

ここから財務戦略に移ります。財務戦略に関してはポイントだけお伝えしたいと思います。

3年間の総原資約 3,170 億円、これに対して、まずポイントは、300 億円の機動的アロケーションと銘打ちましたが、良質な戦略投資案件の他に追加の自己株式取得の原資として用意をさせていただきます。

株主還元方針



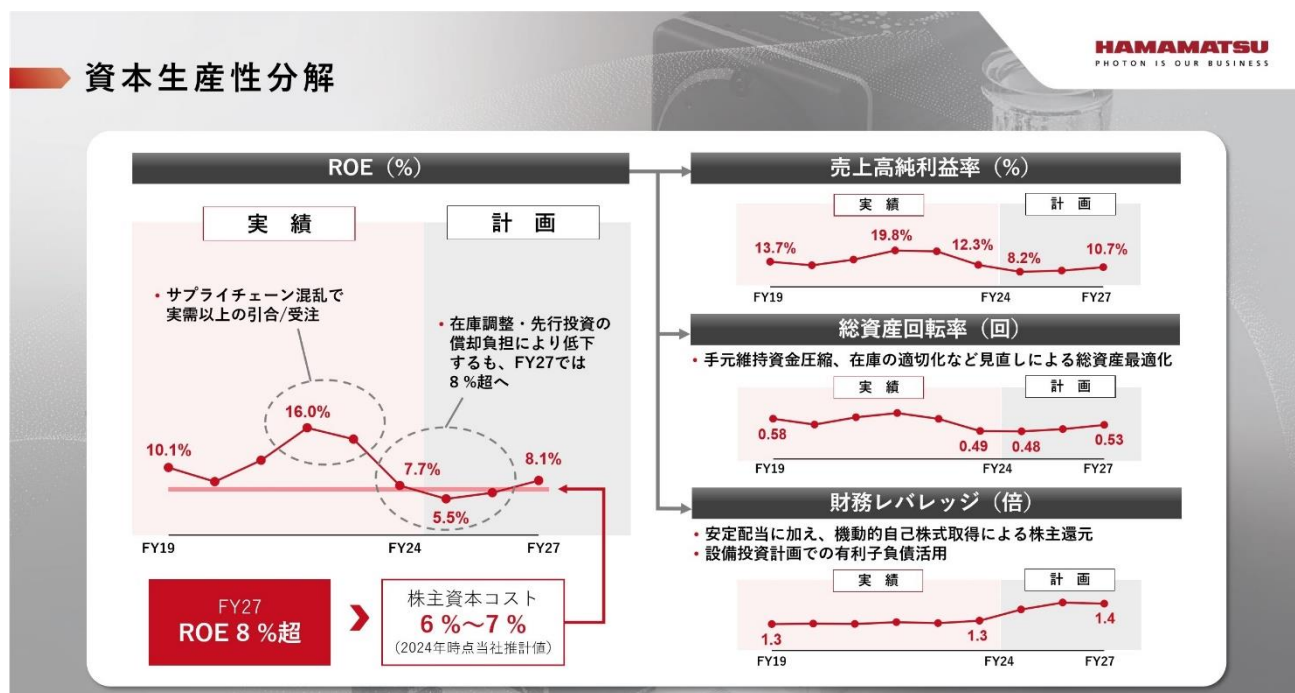
© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 34

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

新しく DOE、自己資本配当率 3.5%という、一つの還元方針も決めることにいたしました。今までは配当性向 30%をめどにやってきたのですが、業績の下振れも考慮しまして、下限を自己資本配当率 3.5%とし、これから配当方針をしっかりと決めていきたいと思っております。

自己株式取得も、機動的に実施していく。もちろんそのときの資金繰りや投資案件にもよりますが、しっかりと自己株式の取得も視野に入れて進めていきたいと考えております。



最後に ROE ですが、ROE が 25 年度は 5.5%まで低下する予定でございます。もちろんこれを少しでも上に上げるように、利益額を上げるように努力をしておりますが、一つの目標として、27 年度に 8%を超えるところまで回復させる。われわれは絶対にこれをやっていかなくてはならないことですので、これを目指して進んでいく。ただ、そのためには利益額、純利益が非常に効いてきますので、しっかりと利益を上げることが ROE の改善につながると考えております。

総括、まとめでございます。

成長戦略に関しては、当社の持っている強みを活かせる既存市場でしっかりと成長していく。新規ビジネスモデルである高付加価値モジュールを投入する。また、NKT Photonics とのシナジーをもって売上をアップさせる。また、中長期的には中央研究所のアウトプットをしっかりと市場に展開していく。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

財務戦略に関しましては、持続的成長のためのキャピタルアロケーションをしっかりと提示し、中長期的な視点で利益還元を行うことを目的として、株主還元方針に DOE を導入したということでございます。

以上、こういったことをもとに、まず 2027 年は連結売上高 2,591 億円、営業利益で 377 億円、EBITDA で 620 億円を目指して前に進んでいきたいと考えております。

私からの発表を終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

